

平成25年8月1日

第78回 町村議会広報研修会 レポート

大山町議会議員 大杖 正彦

期日 ; 平成25年7月29日～30日

場所 ; シェーンバッハ・サボー(砂防会館別館会議室)

主催 ; 全国町村議会議長会

第78回 町村議会広報研修会は、全国から約670名余の出席者があり開催され、初日(7/29)、全員同一会場にて、以下の3先生の講義を受けた。

I ; わかりやすく、ふさわしい日本語

講師 ; 山田 貞雄 氏 (国立国語研究所センター専門職)

II ; 広報紙面デザインの基礎知識

講師 ; 長澤 忠雄 氏 (武蔵野美術大学教授)

III ; 議会だよりの撮影方法と表現方法

講師 ; 川西 正幸 氏 (日本写真家協会会員)

二日目(7/30)、4つの分科会に別れ、講義が行われた。

第1分科会 ; 深沢 徹 氏 (広報コンサルタント)

<大森、大杖 聴講>

第2分科会 ; 長岡 光弘 氏 (グラフィックデザイナー)

<米本、加藤 聴講>

第3分科会 ; 芳野 政明 氏 (広報・編集コンサルタント)

<大森、円岡、中井事務局員 聴講>

第4分科会 ; 吉村 潔 氏 (江デイター、(株)メディアブレーション代表取締役)

東京砂防会館で開催された「町村議会広報研修会」に本町議会より派遣され出席した。

本町議会議員として、総務及び広報常任委員会に所属し、活動しています。特に広報委員会では、年4回発行する「議会だより」の編集作業に多くの時間を費やしています。

編集会議では、これまで発行された大山町の、そして他町村発行の内、全国コンクールで表彰を受けた「議会だより」を参考に、編集作業をこなしているが、多くは先輩議員の経験を頼っているのが現状である。

今回、標記の研修会に参加し、改めて「議会だより」の持つ意味・役割・効果について、強く認識できたことは大きな収穫であった。それまでは、町の広報誌があるので、どこまで必要性があるか、疑問視していたことはゆがめません。

しかし、今回の研修会に参加し、基本的に同じ広報誌であっても、目的・内容そして伝え方に違いがあり、大きな使命を持っていることを認識できたこと、又、本の編集そのものに携わったことのない小生にとって、「みやすさ」・「読みやすさ」・「わかりやすさ」等の編集の基本全てに渡っての講義が非常に新鮮で参考になった。

議会がどのような形で、どんな活動をしているかを、行政との関わり方を含め、住民に知ってもらうためにも、「議会だより」がいかに重要な存在であるか、認識できました。

たとえば、以下のようなことでが非常に斬新であった。

- 町報で同様な項目があっても、重複してでも重要なことは取り扱うべきである。
- 広報委員は記者である、住民の中に飛び込み、現場で生の声を記事にする。

以上